

東書教育賞は教育現場を支援します



代表取締役社長

川畑慈範

おはようございます。紹介のありました川畑でございます。主催者を代表いたしまして、一言お祝いとご挨拶を申し上げます。

第27回東書教育賞を受賞された先生方、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。本日はあいにくの雨模様となりましたが、公私ともご多忙の中、休日にもかかわらず、ご遠方より贈呈式にご出席くださいましたことに厚く御礼申し上げます。

昨年は、9年ぶりに新教育課程が小学校から完全実施されましたが、新学期を目前にした3月11日に、マグニチュード9の大地震が日本列島の大地を揺るがし、「海の壁」と形容される大津波が多くの人々の命を奪い、家々を跡形もなく押し流してしまいました。さらに、大地震・大津波に誘発された原発事故によって、10か月余り経過した今も多くの人たちが住み慣れた故郷を離れて不自由な避難生活を強いられています。

国難とも言うべきこの未曾有の災害は、教育にも大きな課題を投げかけましたが、あの極限状況の中において繰り広げられた様々な営みを通して、教育や学校の持つ有形・無形の力の大きさ、教育や学校に寄せる人々の期待や希望の大きさを再認識させられましたし、教育や教科書を最優先に考える国民的なコンセンサスが厳然として存在することを実感させられた気がいたしております。

被災地の一日でも早い復興・再生を願うとともに、二度とこのような災害が起こらないことを祈るのみでございます。

さて、昨年の小学校に続いて、この4月からは中学校と高等学校の理数が新教育課程に完全移行いたします。ある民間の研究所の調査（注1）によりますと、新課程への移行を目前にした中学校では、80%を超える先生が、多忙化や担当教科の負担のアンバランス、教員不足などで不安を感じておられるという結果が報告されております。

40年ぶりに指導内容や指導時間数が増加した新教育課程は、旧教育課程に比べてかなりレベルアップした内容になります。加えて、言語活動や体験活動の充実、理数教育や道徳教育の充実、伝統文化に関する教育の充実、さらには教育の情報化など、新たな課題への対応などによって、先生方の多忙化にますます拍車がかかることが懸念されます。

一方で、教員の資質・能力の向上が言われ、中教審の主要なテーマにもなっております。全国の自治体の優秀教員表彰制度で表彰された優秀教員に対する質問紙調査を行った調査研究（注2）では、自分のライフコースを振り返って、授業実践や教育に対する考え方に最も影響を及ぼしたのは、「学校内や学校外での優秀な教員との出会い」（学校内40.4%、学校外15.2%）や「教科等での研究会での活動」（7.2%）、「学校

内での授業研究」(6.7%)という答えが上位を占めており、優秀な先生方は、自らの「力量形成」において、優れた教員との出会いや授業や教材の研究が重要であったと認識しておられることが明らかになっています。

また、授業実践をする上で心がけていることは、という問いには、「教材の開発や研究を積極的にしている」(70.4%)、「常に自分で課題を見つけ、授業改善の努力をしている」(66.4%)という回答が70%近くを占めていました。

本日受賞された先生方の論文を読ませていただいて、どの論文にも共通していると感じましたことは、子どもたちへの愛情に支えられた強い情熱と、子どもに対する深い理解、自ら課題を見つけて実践する独創的な授業づくりなどの専門家としての高い力量でございます。

先生方の日ごろの弛まぬご実践とご研究に心より敬意を表しますとともに、誠に僭越ではございますが、若い先生方の「力量形成」により一層のお力を注いでいただきますようお願い申し上げます。

弊社といたしましても、先生方のご実践の記録を論文集としてまとめ、多くの先生方にご覧

いただくことによって、授業改善に取り組んでおられる先生方、とりわけ若い先生方の「力量形成」のお役に立てるよう、微力ながら応援させていただき所存でございます。

最後になりましたが、公私ともご多忙な中、最終審査をご担当いただきました審査員の先生方、一次審査をご担当いただきました東京教育研究所主任研究員の先生方はじめ多くの先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、本日ご出席いただきました報道関係者の皆様方に感謝申し上げます、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

受賞された先生方、本日は誠におめでとうございます。今後のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(注1) ベネッセ教育研究開発センター『中学校の学習指導に関する実態調査報告書2011』

(注2) 松尾知明(国立教育政策研究所総括研究官)『優秀教員の力量形成に関する研究』(『教職課程』2011年5月号)